海岸保全施設の現況調査事業

海岸保全施設は築造後約半世紀を経過したものが多く、部材経年劣化や波浪の影響により施設の機能低下が進行している。しかし、通常の管理では行き届かないことから、海岸保全施設の現況を網羅的に把握し、津波・高潮発生時における機能確保を確認するとともに、地域の雇用創出を図る。

海岸保全施設の現況調査

現況調査に係る人材を雇用

空洞化状況

鋼矢板腐食孔からの吸い出しによる陥没被害

空洞化によって壊滅的な被害のおそれ

期待される効果

〇津波・高潮発生時における海岸保全施設の機能確保の確認、地域の雇用確保